

2024年3月期 第3四半期 決算説明会資料

株式会社サニックス
2024年2月14日

目次

1. 2024年3月期 第3四半期 決算概況	P.3
2. 2024年3月期 通期業績見通し	P.20
3. トピックス	P.23
4. 補足資料（事業構造）	P.27

<注意事項>

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。

2024年3月期 第3四半期 連結決算概況

2024年3月期 第3四半期 連結決算概況

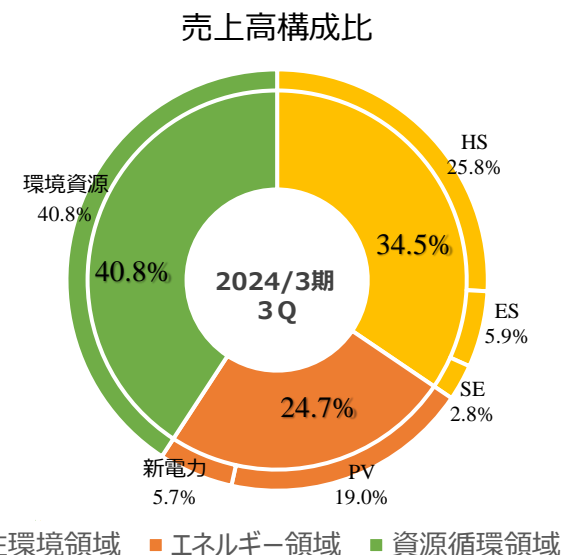
前年同期比 減収・増益 ✓ 僅かに減収となったものの、大幅増益

- 売上面では、新電力部門における事業構造の転換を進めた影響(前年同期比54.6%減)があったものの、全体では前年同期並みの水準にて推移
- 利益面(営業利益)では、住環境領域と資源循環領域において、それぞれ前年同期比約36%増加し、全体では、同比117.6%増加。特に、苫小牧発電所の売電契約単価が上昇したことが寄与

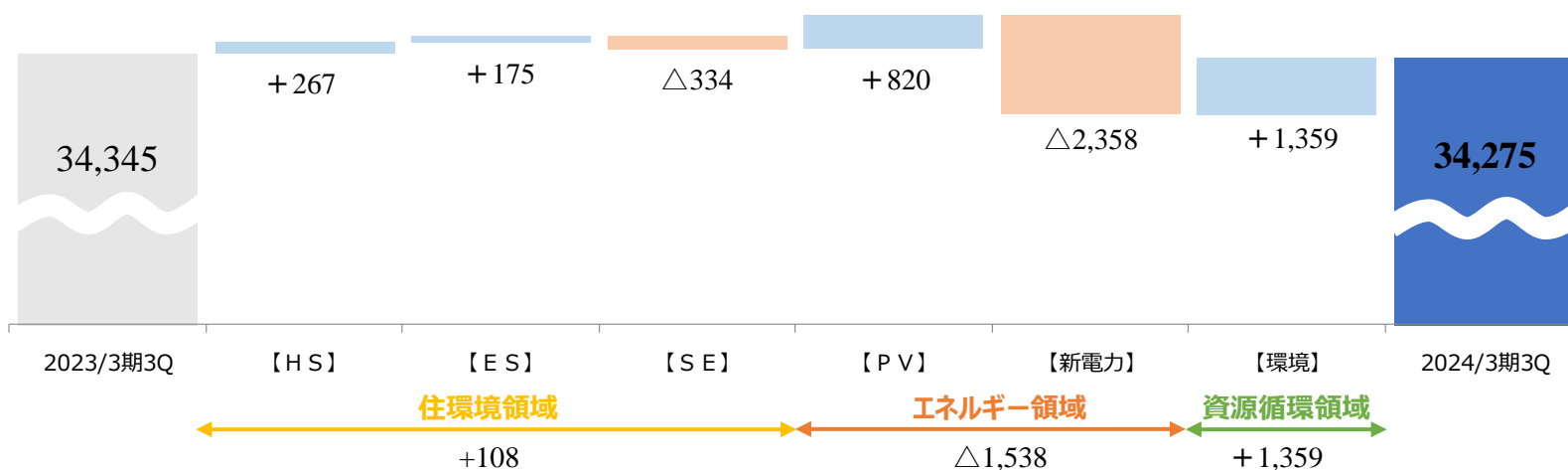
単位:百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	34,345	34,275	35,767	99.8%	95.8%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	11,937 34.8%	12,999 37.9%	13,107 36.6%	108.9%	99.2%
営業利益 (売上高営業利益率)	1,111 3.2%	2,419 7.1%	2,257 6.3%	217.6%	107.2%
経常利益 (売上高経常利益率)	935 2.7%	2,242 6.5%	2,090 5.8%	239.6%	107.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (売上高四半期純利益率)	649 1.9%	1,806 5.3%	1,589 4.4%	278.2%	113.7%

2024年3月期 第3四半期 売上高

単位:百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	34,345	34,275	35,767	99.8%	95.8%
住環境領域	11,707	11,815	13,052	100.9%	90.5%
エネルギー領域	10,019	8,481	8,992	84.6%	94.3%
資源循環領域	12,619	13,978	13,721	110.8%	101.9%

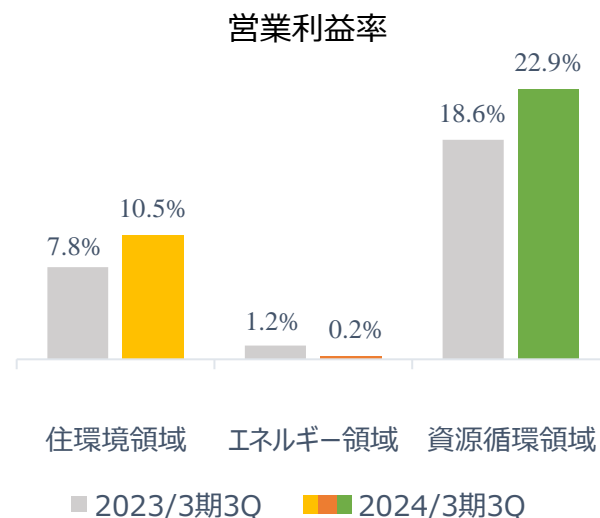


■ 前年同期比較



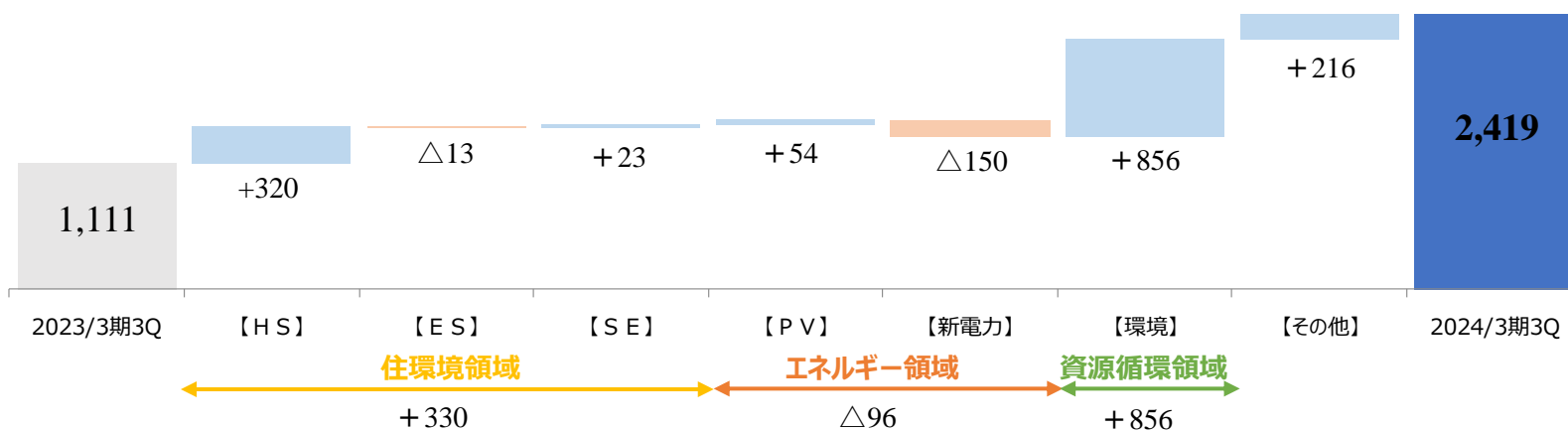
2024年3月期 第3四半期 営業利益

単位:百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
営業利益	1,111	2,419	2,257	217.6%	107.2%
住環境領域	913	1,243	1,822	136.2%	68.2%
エネルギー領域	116	19	3	17.1%	577.0%
資源循環領域	2,343	3,200	2,537	136.6%	126.1%
配賦不能	△ 2,260	△ 2,044	△ 2,106	-	-



■ 前年同期比較

【単位:百万円】



【住環境領域】



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サンニクスでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

HS(ホーム・サニテーション)部門

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

ES(エスタブリッシュメント・サニテーション)部門

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。



ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

SE(ソーラー・エンジニアリング)部門

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

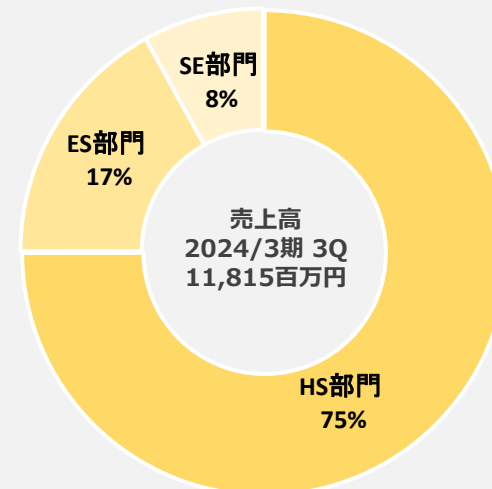


住宅用太陽光発電システム



蓄電池

住環境領域 売上高構成比



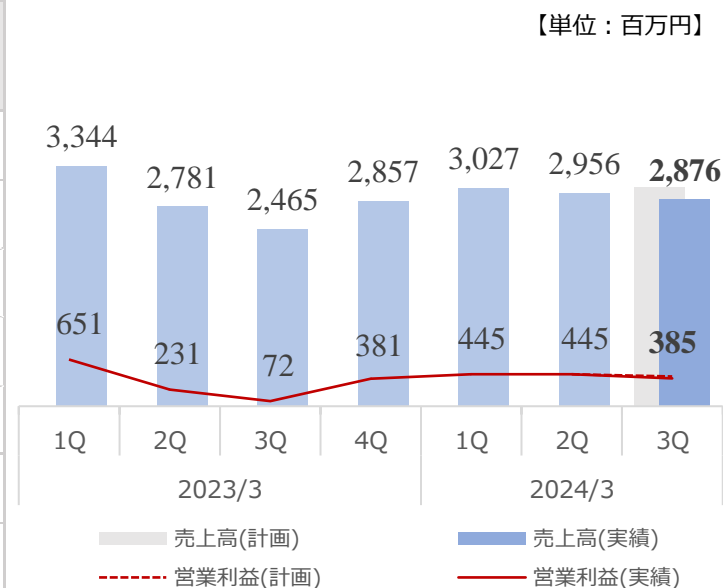
【住環境領域】

【HS事業部門 概況（前年同期比較）】

● 増収・増益

新規顧客の開拓を重視した営業方針を強化し、顧客基盤の拡充に向けた取り組みを推進したことから「白蟻防除施工」、「床下・天井裏換気システム」が堅調に推移したことで増収増収に加え、外注工事費の減少、ならびに販管費等の固定費の削減効果により増益

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	8,591	8,859	9,662	103.1%	91.7%
白蟻防除施工	2,991	3,236	3,224	108.2%	100.4%
床下・天井裏換気システム	2,136	2,246	2,574	105.1%	87.3%
基礎補修・家屋補強工事	1,211	1,167	1,456	96.3%	80.2%
その他	2,251	2,209	2,407	98.1%	91.7%
売上総利益	5,151	5,430	5,933	105.4%	91.5%
営業利益	956	1,277	1,660	133.6%	76.9%



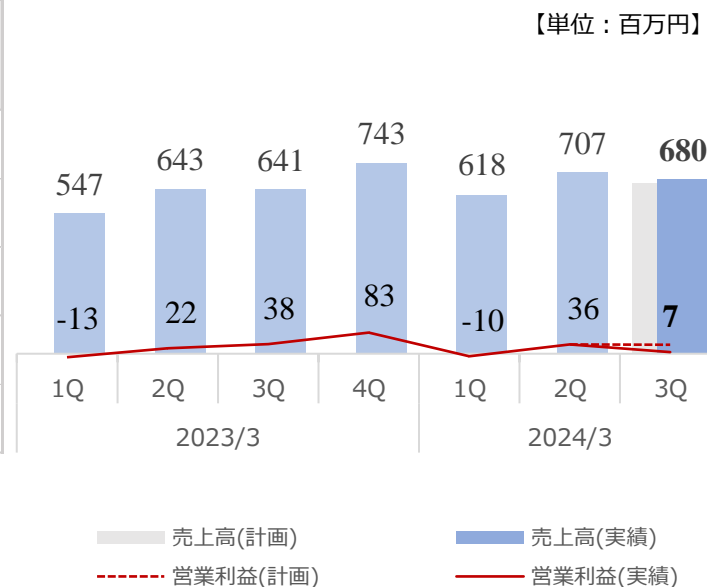
【住環境領域】

【E S事業部門 概況（前年同期比較）】

● 増収・減益

ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係強化により、「建物給排水補修施工」が堅調に推移したことから増収。一方で、原価率の高い商品構成となったことにより減益

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	1,832	2,007	1,956	109.6%	102.6%
防錆機器取付施工	790	749	920	94.8%	81.5%
その他	1,041	1,257	1,036	120.7%	121.4%
売上総利益	954	963	1,084	100.9%	88.8%
営業利益	47	34	127	71.8%	26.8%



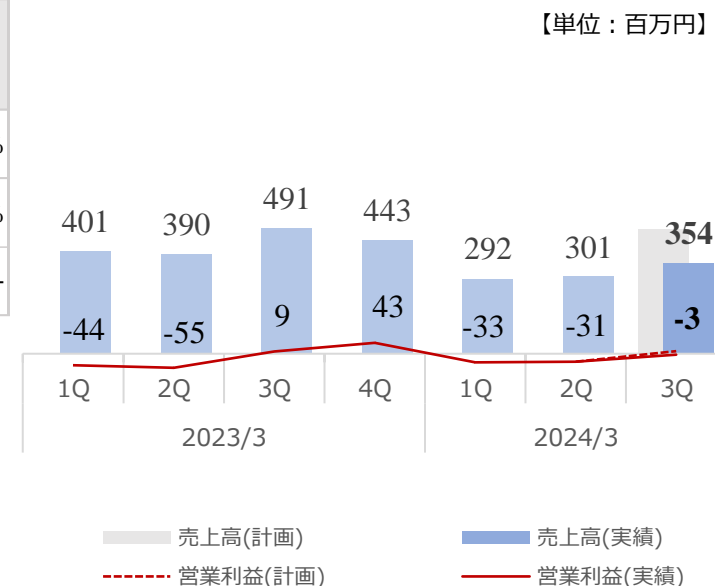
【住環境領域】

【S E 事業部門 概況（前年同期比較）】

● 減収・増益

蓄電池の販売、既設太陽光発電システムのパワーコンディショナー交換工事は増加したものの、業務提携先の開拓に人員を割いたことにより、一時的に売上水準が低下。一方で、採算性の改善を進めたことにより赤字幅縮小

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	1,283	948	1,434	73.9%	66.2%
売上総利益	435	257	486	59.1%	52.8%
営業利益	△ 90	△ 67	34	-	-



【エネルギー領域】



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発
- 電力の小売販売

サンイクスでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

PV部門

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型



非FIT電源開発

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

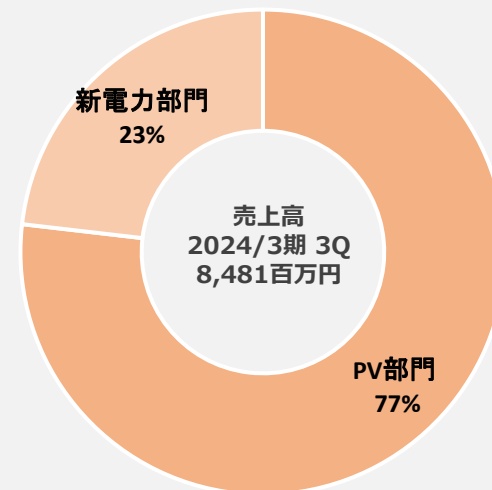
新電力部門

当社は、2001年に全国で8番目に特定規模電気事業者（電力小売）として登録し、2015年11月付で、経済産業省に登録小売電気事業者として登録されています。太陽光発電事業と電力販売は親和性の高い事業。シナジー効果で、幅広いサービスの提供を可能にします。



電力小売

エネルギー領域 売上高構成比



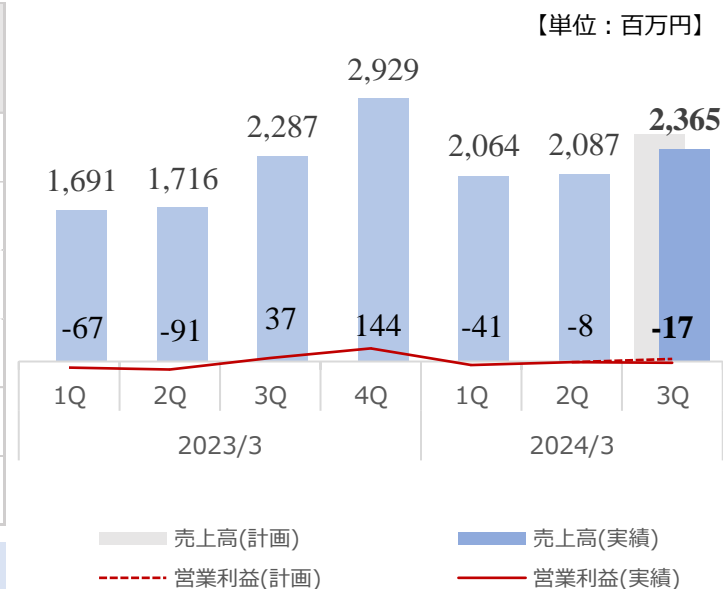
【エネルギー領域】

【PV事業部門 概況（前年同期比較）】

● 増収・増益

非FIT電源開発、法人向け自家消費型太陽光の施工を積極的に展開し、また、既設太陽光発電所のメンテナンス売上が堅調に推移したことから増収。一方で、為替の影響等による材料コストの増加影響は続くものの、採算性の改善を進めたことにより赤字幅縮小

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	5,696	6,516	7,192	114.4%	90.6%
施工売上	5,538	6,416	7,034	115.9%	91.2%
卸売上	88	30	90	34.4%	34.0%
その他	69	69	67	100.6%	103.1%
売上総利益	1,284	1,444	1,488	112.5%	97.1%
営業利益	△ 121	△ 67	0	-	-



▶ 国内における建設用電線の需要が急拡大していることから、2023年11月以降、建設用電線の新規調達が困難な状況となっており、各種建設工事に遅れが発生。当社の太陽光発電設備設置工事においても、工期の遅れが発生している状況。（足元では徐々に改善傾向）

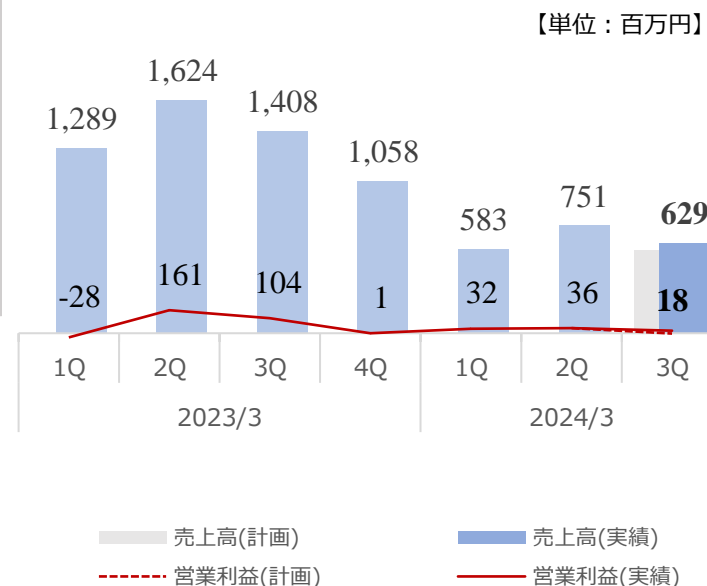
【エネルギー領域】

【新電力事業部門 概況（前年同期比較）】

● 減収・減益

前期より事業構造の転換を進め、売上規模が前年同期に比べて半分程度となったことで減収・減益。一方で、市場調達に頼らない事業構造へと見直したことにより継続して採算性を確保

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	4,322	1,964	1,800	45.4%	109.1%
売上総利益	378	177	114	46.9%	155.8%
営業利益	238	87	3	36.9%	—



【資源循環領域】



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃プラスチックによる発電
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 産業廃棄物の最終処分

サニックスでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発電熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく、済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



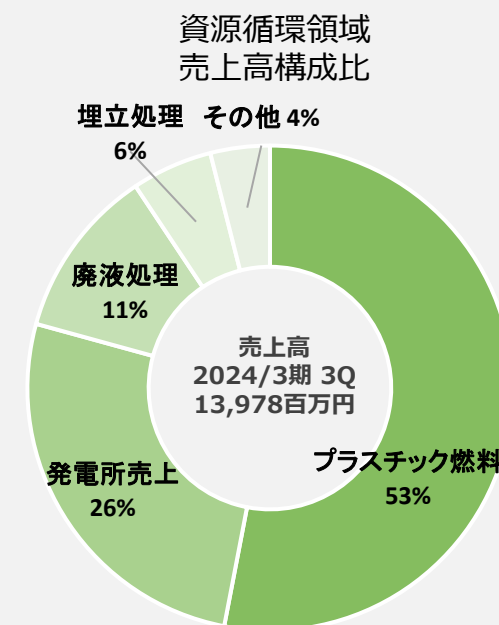
最終処分場

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。



廃液処理工場



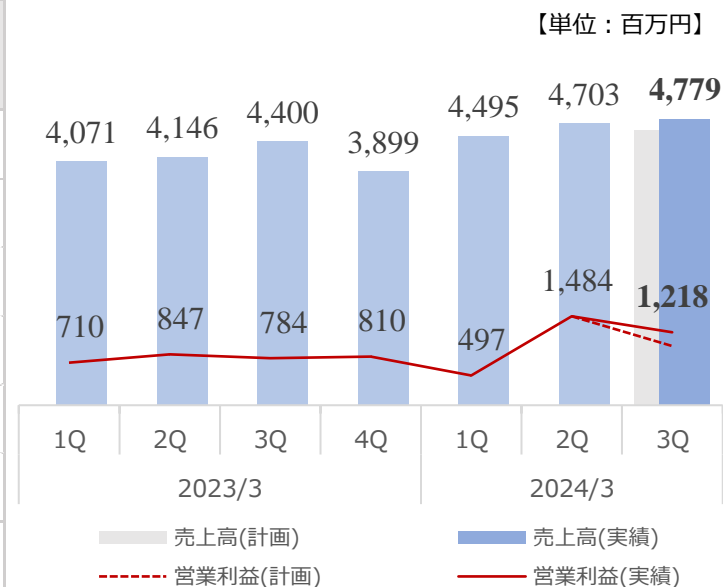
【資源循環領域】

【環境資源開発事業部門 概況（前年同期比較）】

● 増収・増益

苫小牧発電所において、法定点検(2023年3月中旬から4月末)を実施したことで修繕コストが増加したものの、売電契約単価が上昇したことにより採算性が向上し増収・増益

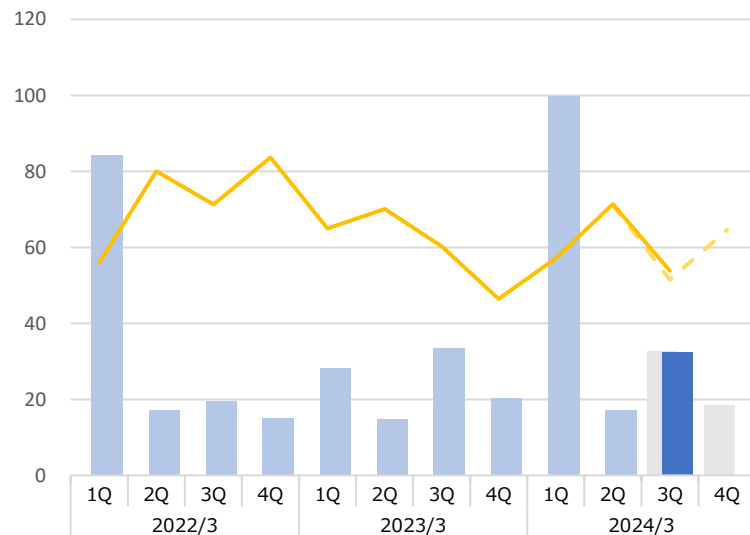
単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 計画	前年同期比	計画比
売上高	12,619	13,978	13,721	110.8%	101.9%
プラスチック燃料	7,547	7,411	7,683	98.2%	96.5%
発電所売上	2,344	3,668	3,543	156.4%	103.5%
廃液処理	1,564	1,591	1,574	101.7%	101.1%
埋立処理	799	753	539	94.2%	139.7%
その他	362	553	381	152.7%	145.1%
売上総利益	3,733	4,725	3,999	126.6%	118.2%
営業利益	2,343	3,200	2,537	136.6%	126.1%



環境資源開発部門の各種推移

苫小牧発電所の稼働状況

総発電量(GWh)



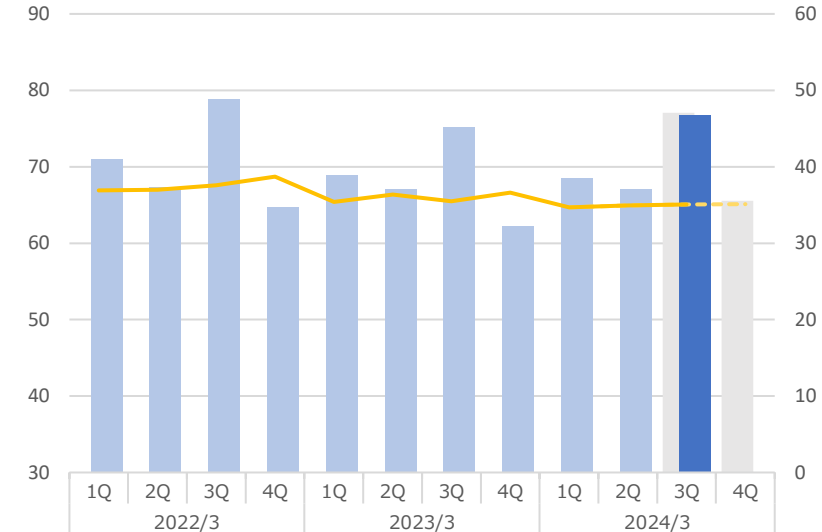
法定 点検	ボイラー	○								○		
	タービン									○		
定期点検			○		○		○					○

■ 環境資源修繕費(計画) ■ 環境資源修繕費(実績)
--- 総発電量(計画) --- 総発電量(実績)

廃プラスチックの受入状況

受入(1,000t)

処理単価(千円/t)



■ 廃プラ受入量(計画) ■ 廃プラ受入量(実績)
--- 処理単価(計画) --- 処理単価(実績)

※処理単価 = プラスチック燃料売上高 ÷ 廃プラ受入量

- 2024年3月期 法定点検：2023年3月中旬から4月末 実施
 ※法定点検 2年に1度実施（タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと）

自己資本比率が22.5%となり、前期末に対して+4.5ポイント改善

単位:百万円	2023/3期	2024/3期	前 期	
	期 末	3Q 実績	差異	前期比
流動資産	13,683	14,612	928	106.8%
固定資産	19,902	20,555	652	103.3%
資産合計	33,586	35,167	1,581	104.7%
流動負債	16,382	16,767	384	102.3%
固定負債	11,135	10,471	△ 664	94.0%
負債合計	27,518	27,238	△ 279	99.0%
純資産合計	6,068	7,929	1,861	130.7%
負債純資産合計	33,586	35,167	1,581	104.7%

設備投資・減価償却費 実績

単位：百万円	2023/3期 3Q 実績	2024/3期 3Q 実績
住環境領域	50	15
エネルギー領域	59	128
資源循環領域	887	1,798
本社	56	149
設備投資合計	1,053	2,090
減価償却費	1,318	1,214

【主な設備投資】

- 廃プラスチック処理設備にかかる投資：613百万円
- 埋立処理にかかる投資：592百万円
- 苫小牧発電所にかかる投資：432百万円

セグメント別 人員・拠点数

	2023/3期 期末		2024/3期 3Q		人員増減
	拠点数	人員数	拠点数	人員数	
H S 部門	63	853	63	862	+9
E S 部門	12	160	12	167	+7
S E 部門	14	81	14	77	△4
P V 部門	35	254	30	259	+5
新電力部門	1	15	1	13	△2
環境資源開発部門	18	444	19	460	+16
本社	—	247	—	234	△13
合 計	—	2,054	—	2,072	+18

※上記拠点数には、同一拠点を含みます

※環境資源開発部門は、発電所 1 拠点、最終処分場 1 拠点含む

2024年3月期 通期連結業績見通し

※業績見通しについては、2023/5/15発表より変更はありません

2024年3月期 通期連結業績見通し

※業績見通しについては、2023/5/15発表より変更はありません

前期比 増収・増益 予想

- 売上高 47,965百万円 (前期比 103.6%)
- 営業利益 3,231百万円 (前期比 181.0%)

2024年3月期 連結業績見通しのポイント

	ポイント
住環境領域	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 提携先拡大に向けた法人営業体制の強化と、人員の採用・育成 ➤ 新型コロナウイルスによる対面での営業活動への制約がほぼ解消
エネルギー領域	<ul style="list-style-type: none"> ➤ PV部門における法人・自治体向け自家消費型太陽光や、太陽光電源開発など、FITに依存しない事業モデルの本格化 ➤ 新電力部門において、事業構造の転換が完了（売上規模は前期の半分程度）
資源循環領域	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 苫小牧発電所の売電契約単価の上昇 ➤ 法定点検実施による苫小牧発電所の稼働停止及び修繕コストの増加

重要経営指標

		2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	36.3%	27.9%	—	24.8%	35.0%
総資産経常利益率	ROA	8.2%	6.4%	—	4.5%	9.0%
自己資本比率		18.5%	24.5%	13.5%	18.0%	22.0%
投下資本利益率	ROIC	10.8%	11.2%	—	8.4%	14.0%

(単位：百万円)

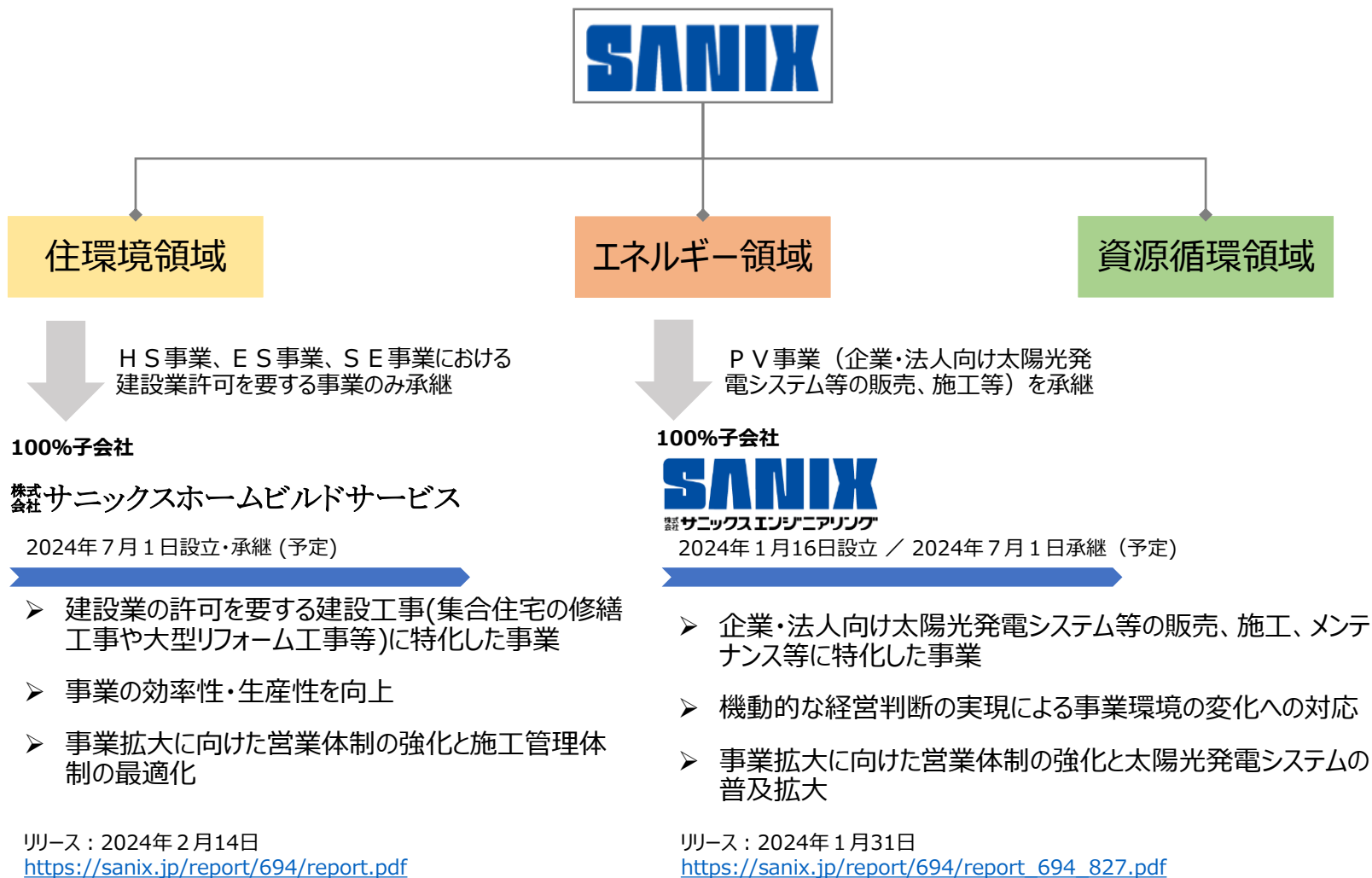
	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 計画
設備投資	3,083	2,776	1,566	2,400
減価償却費	1,097	1,509	1,889	1,800

トピックス

サニックスグループの事業再編

サニックスグループの事業再編

～より高い成長性・収益性の実現に向けて～



地域の脱炭素社会の実現に向けた取り組み

■ 地域の脱炭素社会の実現に貢献

当社は、神奈川県座間市が2050年までにCO₂排出の実質ゼロを目指すための取り組み「座間市立総合福祉センターへの太陽光発電設備等導入事業（PPA※事業）」の優先交渉権者に選定されました。2023年3月の同市有施設（2施設）への太陽光発電設備導入に続き、3施設目の選定です。

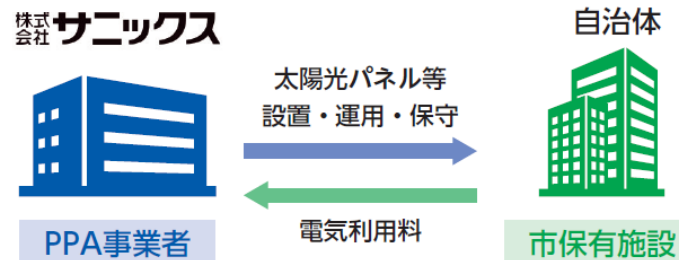
サニックス

- 施設内の屋根等を借り受け、太陽光発電設備を設置し、運用・管理します。
- 設置、運用、管理費用は、座間市からの電気料金でまかさないです。

座間市

- 施設内の屋根等を提供し、発電された電気を施設で自家消費します。
- 使用した電力量に応じて電気料金をサニックスに支払います。

<事業スキーム>



※PPA(Power Purchase Agreement(電気販売契約)の略)
 PPA事業者が、需要家の敷地内で太陽光発電設備を設置・運用・メンテナンスし、発電された電気を需要家に供給販売する仕組み。

当社の太陽光発電事業は、調達から販売・施工・メンテナンスまで、一貫したサービス提供を強みとしております。太陽光発電システムの販売・施工実績で培ったノウハウを生かして、今後も脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

▶ 施工実績

※2023年12月末現在

法人向け太陽光発電

施工実績 約**29,000**件

家庭向け太陽光発電

施工実績 約**20,000**件

遠隔監視装置

施工実績 約**11,000**件

リリース：2024年2月9日

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000107.000025581.html>

中期経営計画「成長投資」について

■ 中期経営計画「成長投資」の進捗について

▶ 廃液事業：再生燃料の製造ラインを増設

再生燃料「再生油Bio」の生産ラインを1ラインから2ラインに増設。**今年度中の完成予定**

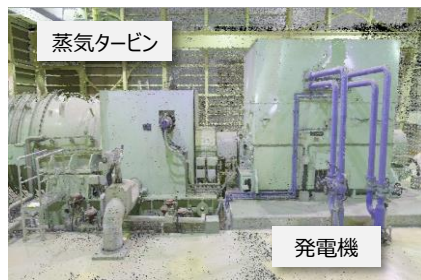
「再生油Bio」とは、外食チェーン等の飲食店から発生する廃水や汚泥などの産業廃棄物から、ゴミや汚泥分を除去し、油分のみを分離回収することで、化石燃料の代替燃料として利用可能にした再生燃料です。

令和5年度「経済産業省産業技術環境局長賞」を受賞！

◆表彰概要:<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000105.000025581.html>

▶ 発電事業：タービン・発電機リニューアル

タービン・発電機を現在使用している廃プラ燃料の特性に合わせた設計に変更・交換を2026年3月期に実施予定



発電出力 ▶ 平均8%程度向上を見込む



原料となる産業廃棄物

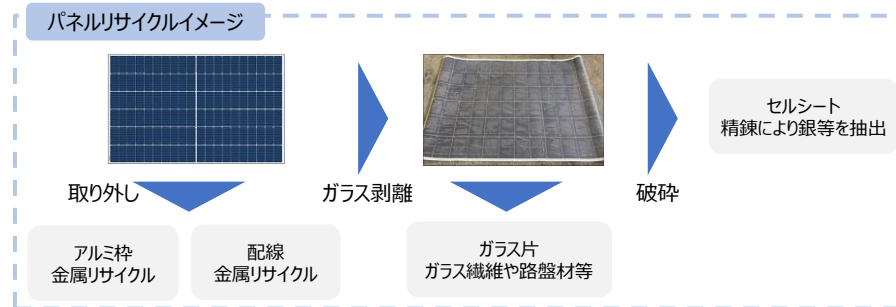


再生燃料「再生油Bio」

生産能力 2,160t/年 ▶ 4,320t/年へ

▶ 使用済み太陽光発電パネルのリサイクル実証を開始

2030年代に使用済みの太陽電池パネルが大量に発生する見通しを前提に、太陽光発電パネルの知見と産業廃棄物の処理ネットワークを持つ当社の強みを活かし、太陽電池パネルのリユース・リサイクル事業の事業化を目指し、技術検証ラインを構築



補足資料（事業構造）

企業理念 「次世代へ快適な環境を」

エネルギー領域

- PV
- 新電力

『環境負荷の低い

エネルギーが当たり前の社会』
再エネの主力電源化、分散電源、自家消費、
マイクログリッド、V P P

『快適な住環境を次世代に

つなぐのが当たり前の社会』

長期優良住宅、住宅のストック化、既存住宅
流通市場形成

住環境領域

- HS
- ES
- SE

資源循環領域

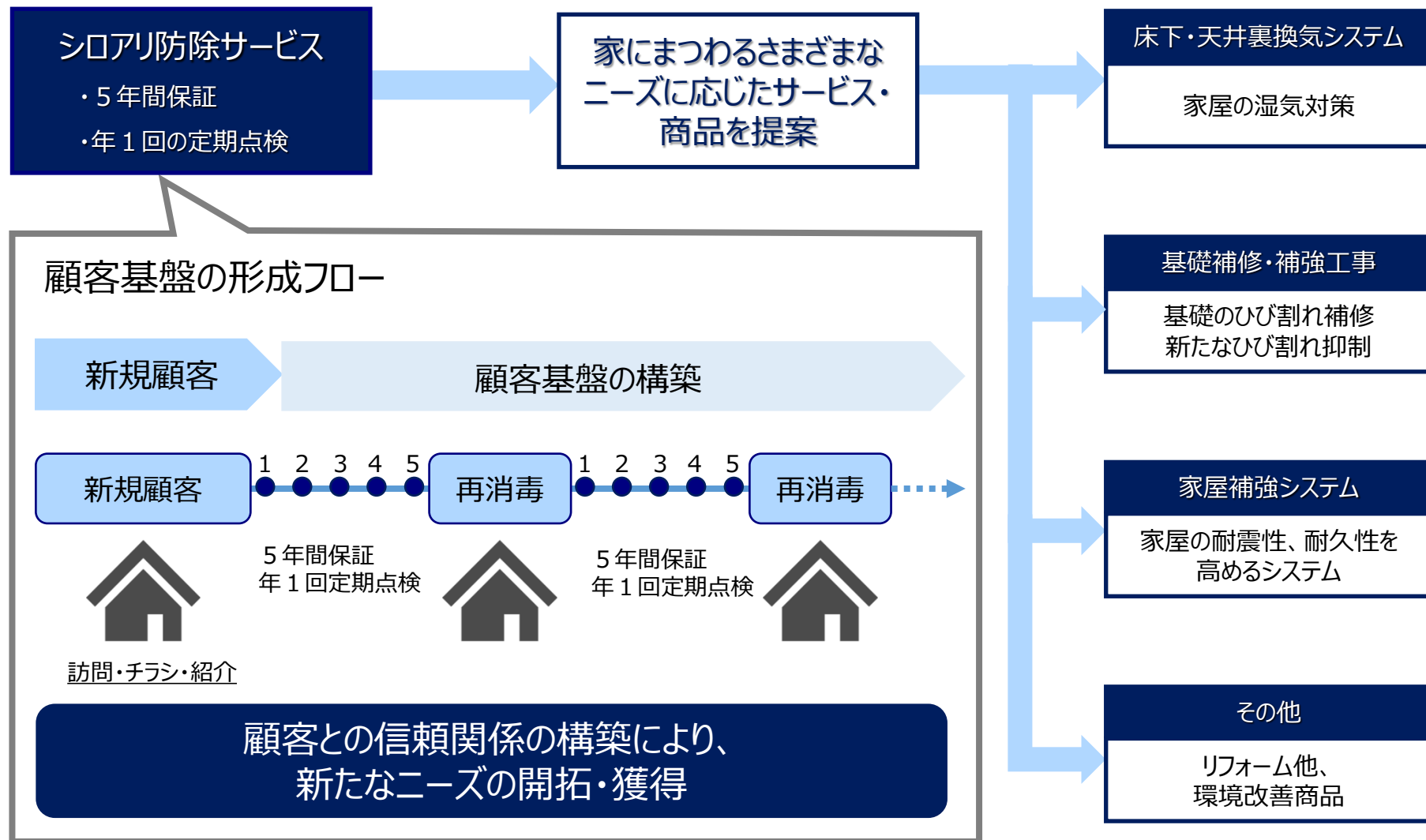
- 環境資源

『捨てないのが当たり前の社会』

環境基本計画、循環型社会形成推進、
プラスチック資源循環戦略

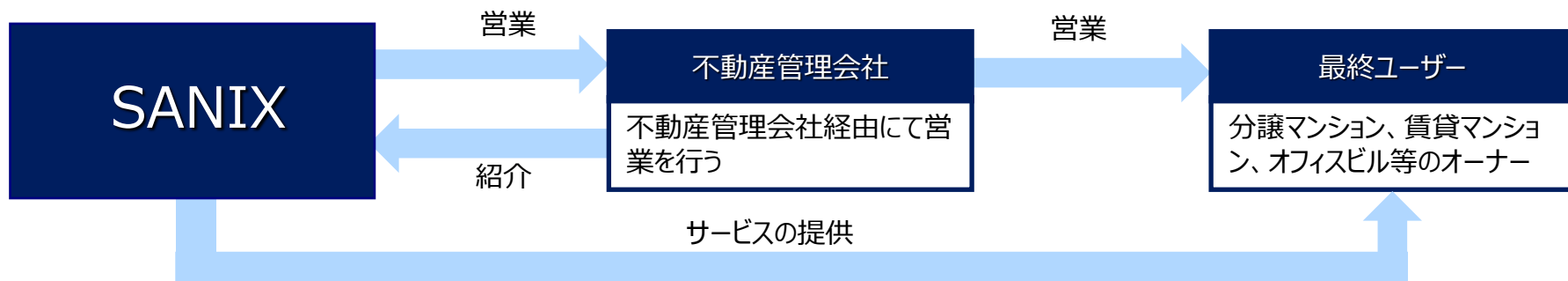
HS事業部門 事業構造

HS部門 事業構造

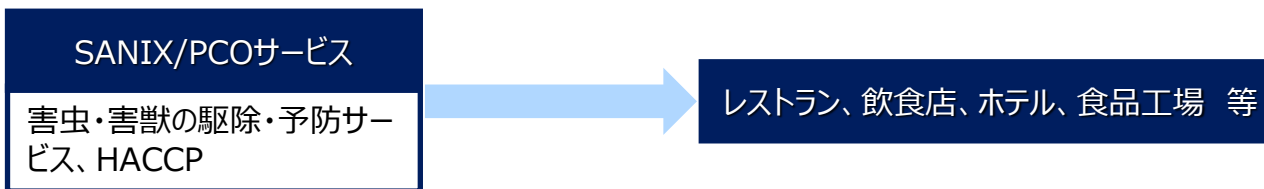
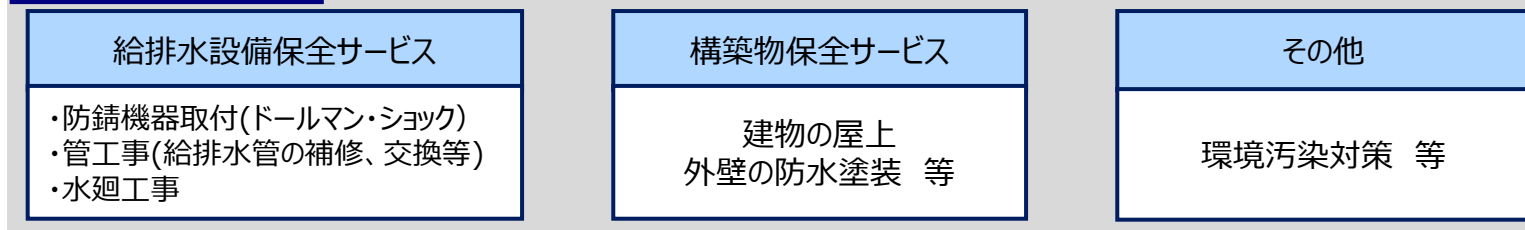


ES事業部門 事業構造

E S 部門 事業構造



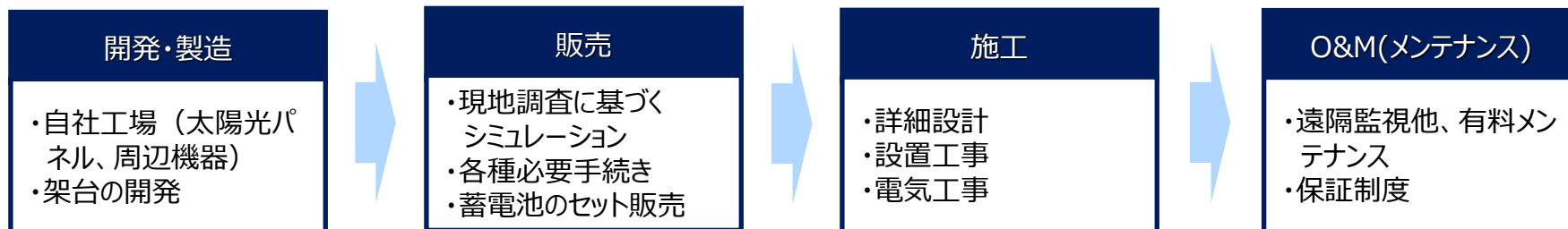
主なサービス・商品



SE/PV事業部門 事業構造

SE/PV部門 事業構造

調達・販売・施工・メンテナンスまでトータルサービスを提供



住宅向け（10kW未満） 主にSE事業部門

- 新築住宅：ZEH普及促進
- 既築住宅：省エネ改修支援等による導入加速を背景に、住宅・小規模建築物向け太陽光発電市場は堅調な推移が見込まれる

➡ 住宅太陽光発電市場専門の組織を新たに編成し、積極的な開拓を狙う

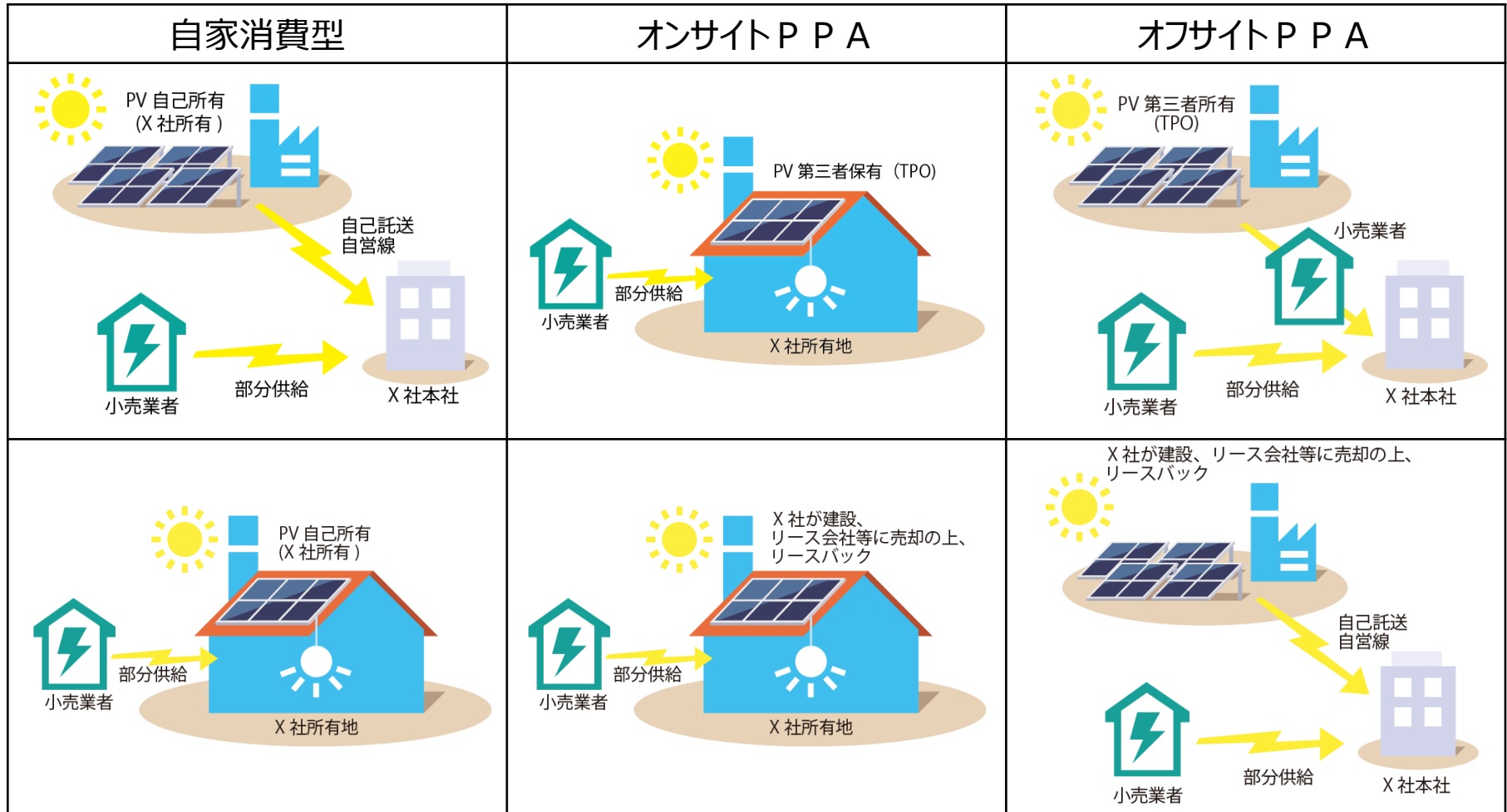
法人・自治体向け（10kW以上） 主にPV事業部門

企業や地方自治体を中心に、脱炭素への取り組みが本格化。太陽光発電設備の導入・保有方法や、発電電力の供給方法等が多様化・高度化することでFIT制度下とは異なる市場が大きく成長することが見込まれる

➡ 各種サービスを展開するための協業体制が整い、FIT制度に依存しない太陽光発電の営業を本格化
 更なる他社協業を進め、提供サービスの拡充を図る

太陽光設備の導入・保有、および電力の供給方法の 多様化・高度化

電力料金の上昇と、太陽光発電システムの低コスト化やPPAサービスの浸透等を背景に、
経済合理性・脱炭素対応・レジリエンス強化、それぞれのニーズにより太陽光導入が本格化

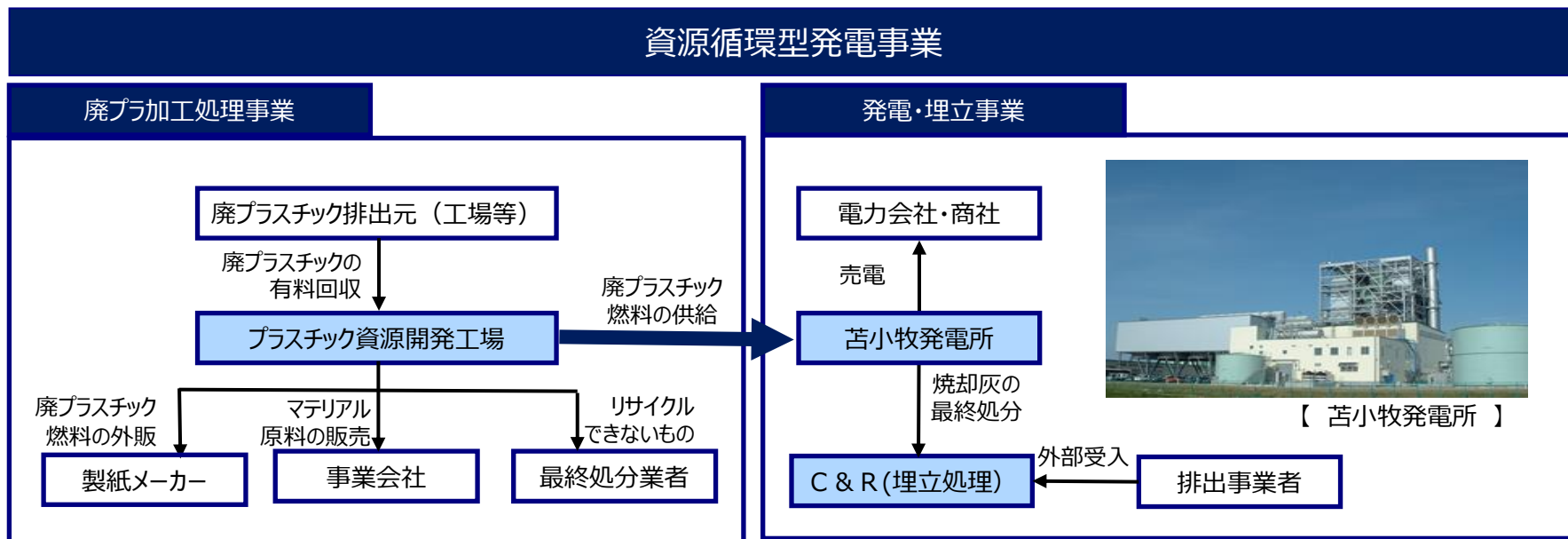


太陽光発電協会ホームページ「発電事業普及へ向けて」より、当社で加工

環境資源開発事業部門 事業構造①

環境資源開発部門 事業構造

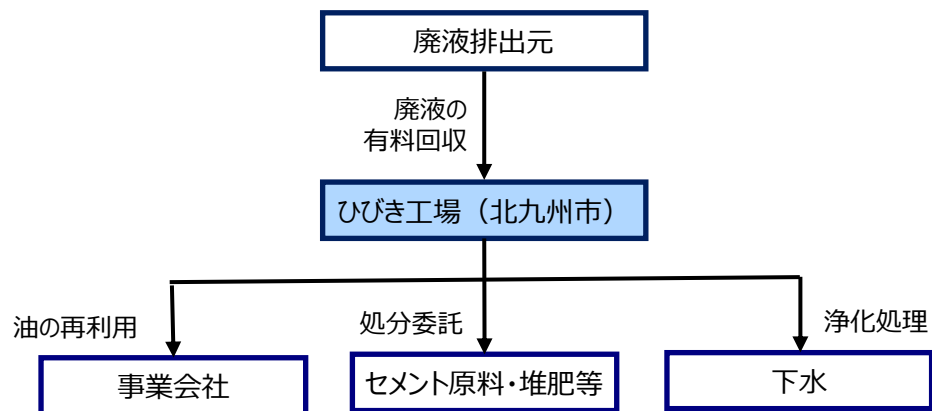
資源循環型発電事業



【 苫小牧発電所 】

- 全国15箇所のプラスチック資源開発工場では、メーカーなどの製造工場等から排出される廃プラスチックを、処理手数料とともに回収
- 回収した廃プラスチックは、廃プラスチック燃料に加工処理して、苫小牧発電所に供給
- 苫小牧発電所において、廃プラスチック燃料を利用して発電し、電力会社・商社に売電
- 発電所への供給以外にも、製紙メーカーへの廃プラスチック燃料の外販やマテリアル原料としての販売を実施
- 苫小牧発電所における焼却灰は、C&R(苫小牧市:埋立処理場)で最終処分を実施

廃液処理事業



【 ひびき工場 】

※汚泥・廃液を処理する施設としては、国内最大規模

- 食品・飲料工場から排出される廃液を処理手数料とともに回収
- 回収した廃液は、ひびき工場（北九州市）において、微生物処理等によって浄化
- 浄化処理後の処理水は、再利用水として再利用するか、放流基準に達していることを確認のうえ放流
- 処理工程で発生した脱水汚泥は、セメント原料や堆肥として再利用・燃料化

【免責事項】

- 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

次世代へ快適な環境を
SANIX